

事業完了報告書（実行団体）

事業名:	とちぎ新型コロナウイルス対応緊急助成事業
資金分配団体名:	特定非営利活動法人とちぎボランティアネットワーク
実行団体名:	特定非営利活動法人とちぎみらいwithピア
実施時期:	2021年6月～2022年2月
事業対象地域:	栃木県
事業対象者:	乳幼児期から思春期の子をもつ子育て世代（当事者及び祖父母）と保健師・助産師・保育士・児童福祉及び教育関係者等の支援者

Version 3.2
日付：2022/2/28

I. 事業概要

事業実施概要	<p>未曾有のコロナ禍の中で育てにくさを感じている子育て世代と、支え方に危惧を感じている支援者を対象に、画一的な子育て観に押しつぶされ消失しかけていた人生の夢の再構築に寄り添い、つなぎ、エンパワメントを支え、ポストコロナ時代の新しい日常を生き生きと生きる力を育み、住み慣れた地域で生き生きと生きる喜びを共感・共感できる仲間と集える居場所作りへの意欲を高めることを目的とした。</p> <p>活動としては、コロナ禍の中の子育て世代と彼らを支える保健師・助産師・保育士・児童福祉等々の支援者及びコロナ禍の子育てに関心のある者も含めて対象とし、以下の3事業を実施した。先ず上記の支援者に、「多様な子育て観で、ポストコロナ時代の新しい日常を支える子育て支援者セミナー」をテーマに、対面研修を避けオンデマンド方式による公開研修会を実施した。次に子育て当事者でパワーレスになっていた、育てにくさを感じていたりする未就学のママを対象に、リフレッシュママクラス®を対面式とライブ配信式で開催した。また、仲間と共にいきたいと子育てできる力を育むために、乳幼児・思春期のこどもを持つママ・パパを対象にピアカフェを行政の後援を受けて実施した。</p>
--------	--

II. 課題・事業設計の振り返り

課題設定、事業設計に関する振り返り	<p>課題設定：NPO所属部門枠を払い、一丸となって実施するプロジェクトチームを結成した。計画立案時の市町村は緊急事態宣言発令で新型コロナウイルス対策が優先され、母子事業担当が主担当であった。オンデマンド研修会は市町村支援者、他の2事業も地域の子育て当事者が対象なので、市町村へ影響力のある県担当主管課及び2市の母子主管課に協力支援を依頼した。その結果オンデマンド研修会は県、子育てピアカフェは2市の後援を受けられた。リフレッシュママクラス®は対面実施を予定したが、ポストコロナ時代を見据えてライブ配信も企画した。</p> <p>事業設計に関する振り返り：オンデマンド研修会：受講時期の見極めが定まらず設計より遅延した。結果は受講者数が予定数に近く、配信期間2週間も妥当であった。子育て世代ピアカフェ及びリフレッシュママクラス®の事業設計も影響を被った。双方とも広報ポスターを作成、申し込みはURL、参加者との連絡もメールで対応したのでコロナ禍の事業設計及び広報活動として好評であった。リフレッシュママクラス®は、ポストコロナを見据えて初のライブ配信を実施したが、改善の余地はあるものの好評であった。</p>
-------------------	--

III. 今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）※複数設定の場合はコピーし複数記載ください。

①受益者	②課題	③今回の事業実施で達成される状態（アウトプット）	④指標	⑤目標値・目標状態	⑥結果	⑦考察
その他	その他	公開研修会の受講者募集に、①全県域にマスメディア及び広報媒体で周知、②全市町村母子保健担当係へ周知を計画しているので、本事業の目的が全県に普及啓蒙される。特に公開研修会開催後、ポストコロナにおけるとちぎみらいピアセンター設置への興味関心と期待が高まる。	公開研修会申し込み数、全市町村数44の1/3市町村からの申し込み数、ポストコロナにおけるとちぎみらいピアセンターへの興味関心と期待度	公開研修会申し込み数100名、全市町村数44の1/3市町村からの申し込み数及びポストコロナにおけるとちぎみらいピアセンターへの興味関心と期待度60%	①公開研修会案内を作成し市町村44に郵送、下野新聞及とちぎ放送で周知。当NPOホームページアップした。全市町村母子保健係課へ周知できた。その結果申込み者は予定数に近く96名（96%）だった。②21市町より申込みがあり、目標値は15市町村目標値より多かった。③講義Ⅰ「ポストコロナ時代を生きる親子を地域でサポート！～多様な生き方を受けとめ寄り添うために～」、講義Ⅱ「ポストコロナ時代の少子化対策への提言」、講義Ⅲ「こんなに違う！？物の見え方、聞こえ方～発達障害を理解するために～」、講義Ⅳ「ポストコロナ時代における支援者に求められること～寄り添いつなぎエンパワメントを支えるために」、演習Ⅰ：エンカウンター「本音と本音の出会いで新たな自己発見体験！！～対象者に寄り添いつなぎ力を身につけよう～」のテーマであった。受講者の感想として多かったのは、支援者として工夫できることは「にこやかに心を開いて相手の気持ちを考えて傾聴する。」「解決するのは本人であり、寄り添う姿勢が大切」。配信時間は、70%が丁度いいと、多くが勤務時間終了後に視聴していた。時間を自由に選択できる方法の研修会は対象者のニーズに合わせた学びを提供することができ、有意義出会ったと考えられる。今後の希望する内容は、より具体的な例を挙げて支援方法の提示や、実践・演習方での学ぶ機会の提供を希望する意見が多く見られた。	受益者：子育て世代と彼らを支える保健師・助産師・保育士・児童福祉等々の支援者及びコロナ禍の子育てに関心のある者 課題：周知方法拡大検討 県の後援を受けたにもかかわらず、市町の保健師の受講は少なかった、これは母子関係担当者がコロナウイルス感染対策担当を兼ねている者が多くいることにより、多忙のあまり受講できなかったと思われる。他方、県が保育課に直接働きかけてくれたことにより保育士や幼稚園教諭の受講者が増え、新たな職域が拡大したと考えられる。広報活動として、宇都宮市役所の記者クラブに投げ込みをした結果、下野新聞に掲載された。同時に栃木放送が関心を示し、番組に取り上げてくれたが、反響は感じ取れなかった。一般に方への周知方法を検討する必要性を感じた。
その他	その他	公開研修会のテーマとリフレッシュママクラス®の目的はリンクしており、各々受講することによりコロナ禍における抑圧された子育ての辛酸から解放され、多様な子育て観に変容し生き生きと楽しく自分育てを重ねて子育てする世代が増加する。	公開研修会の申込時と受講後のメールアンケート調査、また、リフレッシュママクラス®各回の自由記載メッセージカードの記述内容（質的変容）	コロナ禍における抑圧された子育ての辛酸から解放され、多様な子育て観で親で生き生きと楽しく自分育てと重ねて子育てする意識への質的変化向上と変容率60%。	公開研修会の上記の研修内容は、コロナ禍における抑圧された子育ての辛酸から解放され画一的な子育て観から多様な子育て観に変容するヒントが多く含まれていた。受講前後のアンケート結果からもこれからの支援へ対する意欲が出ていた。他方、子育て当事者のリフレッシュママクラス®各回の自由記載メッセージカードの記述内容（質的変容）にも、受講者全員に多様な子育て観で親で生き生きと楽しく自分育てと重ねて子育てする意識への質的変化向上が見られた。	受益者：乳幼児期の子を持つ母親と彼女を支える保健師・助産師・保育士・児童福祉等々の支援者及びコロナ禍の子育てに関心のある者 課題：周知方法拡大検討 リフレッシュママクラス®受講者の参加は少なかった、しかし受講したことにより自分の子育てへの思い込みから解放されて、自分本来の生きる目的に気づき、子育てが楽しくなっていく様子が見受けられた。特に受講最後に記述するメッセージでは、コロナ禍で人と会うことが少なくなり、孤立しがちだった自分が生きる意味を見失っていることに気づき、本来持っている力：エンパワメントをとりもどしていく様子が伺われた。コロナ禍であっても、感染予防対策をして同じ境遇の仲間と出会い、仲間と共に活動することの価値に気づくこのプログラムは、コロナ禍において母親達に必須のプログラムであることを確信した。

その他	その他	リフレッシュママクラス®受講者のエンパワメント状態を測定する自己効力感と自尊感情尺度及びフェイススケール（QOL指標）が、クラス実施前測定結果より実施後に回復・向上し、その後受講仲間と共に活動する同窓会活動（1ヶ月～3ヶ月後）の中で継続維持される。	リフレッシュママクラス®受講後、多様な子育て観で自分や仲間の人生の夢の再構築を受容し、ポストコロナの自分や仲間の人生の夢を実現しようとする自己効力感や自尊感情・フェイススケール（QOL指標）の回復・向上度段階。	c.エンパワメント評価3指標（自己効力感・自尊感情・フェイススケール（QOL指標）の平均値・標準偏差・有意差検定等の結果を5段階に分け各々1段階向上。	緊急事態宣言やまん延防止の発令などで、予定していた対面式リフレッシュママクラス®の開催の延期と受講希望者の極端な減少は、予定していたエンパワメントの統計的3評価は実施できなかった。その代わりに受講終了時自分や仲間に記述したメッセージを、エンパワメントの質的評価としたところ、「コロナ禍でリフレッシュして、自分が変わる元気がでた」「ママである前に、一人の人間・女性であることに気づいた時、自分が好きになった」「仲間も自分と同じ思いだったので安心した」「仲間になれそうと感じた」メッセージが多かった。	受益者：乳幼児期の子育てをしている当事者（母親） 課題：自己効力感と自尊感情尺度及びフェイススケール（QOL指標）の低下と向上 リフレッシュママクラス®受講者人数が頃中でコロナ禍で予定していたより少なくなり、エンパワメント状態を測定する自己効力感尺度と自尊感情尺度及びフェイススケール（QOL指標）は、統計的評価ができないと判断し。統計調査は中止した。しかし、2でも占めしたように各受講後のメッセージカードに記述されている内容は充分質的評価に値すると判断し、調査票として充当することにした。書かれている内容を質的聞き取り調査分析法により項目を制すると、コロナ禍に抑圧された母親達に精神面が表出してきたと考えられた。現在対面式で受講した母親たちは1ヶ月後の同窓会の開催に向けて主体的に動いている。同窓会が開催されることによって、これからの生活の質を高めていくために、仲間作りが必要であることを理解しているようであった。
その他	その他	リフレッシュママクラス®受講と子育て世代ピアカフェへの参加により、変容した多様な子育て観でポストコロナを見据え住み慣れた地域で仲間や支援者と共に地域づくり活動意欲が高まる。他方、彼らを支える支援者も事業の効果を認識と共に、ポストコロナの新しい日常を支えようとちぎみらいピアセンター設置への興味関心と期待が高まる。	d.リフレッシュママクラス®受講者数及び子育て世代ピアカフェへの参加者数と全市町村数44の1/3市町村からの申し込み数とポストコロナの新しい日常を支えようとちぎみらいピアセンター設置に対する意識の変容率。	リフレッシュママクラス®受講者数60名及び子育て世代ピアカフェへの参加者数100名と全市町村数44の1/3市町村からの申し込み数、ポストコロナのピアセンター設置に対する意識の変容率60%。	リフレッシュママクラス®はライブ配信2021年12月18日19日参加者8名（宇都宮市、鹿沼市、日光市、下野市）、対面式（足利市しゃんしゃん広場2022年1月21日2月25日1回目10名、2回目は蔓延防止発令で2回目4名であった。子育て世代ピアカフェ2021年12月4日宇都宮保健センター、参加者11名（宇都宮市、鹿沼市、下野市）2022年1月14日小山市健康医療介護総合支援センター、参加者3名（小山市）であった。受講人数はコロナ禍の激動の中で激減したが、終了時のアンケート回答として、「今後の定期的に集まれる場所、相談できる場所7が欲しい。また開催して欲しい。と異口同音に答え、他方彼らを支える支援者も双事業の効果の認識と共に、ポストコロナの新しい日常を支えようとちぎみらいピアセンター設置への興味関心と期待が高まったと考える。	受益者：乳幼児期・思春期の子を持つ当事者（母親） 課題：ピアセンターへの希求 子育てピアカフェを受講し、ハーバリウムと一緒に制作し、その後の交流を通して、受講生同士子育ての悩みや不安を打ち明けたり、世代が違うけれど同じ子育て経験者ということで相談をしてみたりして仲間づくりが大切であることが実感されたようである。子育てピアカフェでも自由記載メッセージカードから「コロナの中で孤独だったので、このような機会が欲しかった」「また開催して欲しい」と異口同音に答え、他方彼らを支える支援者も一緒II活動したことで、2つの事業の重要性と効果を認識すると共に、ポストコロナの新しい日常を支えようとちぎみらいピアセンター設置への興味関心と期待が高まったようである。

IV. アウトカム（事業実施以降に目標とする状況）*

事業実施以降に目標とする状況	公開研修会及びリフレッシュママ（パパ含）クラス®を受講したことにより、多様な子育て観を獲得しエンパワメントされた子育て世代及び支援者が増加し、加えて子育て仲間同士が寄り添いつながり交流の場の集いとしての子育て世代ピアカフェが開催され、ポストコロナを見据え新しい日常を取り戻すために、住み慣れた地域で仲間と集う居場所づくり（とちぎみらいピアセンター）への興味関心と期待度が高まった状態。
考察等	残念ながら緊急事態宣言や蔓延防止令が発出されてしまって、子育て当事者の参加人数が減少してしまったので量的数値目標が測定することができなかったが、リフレッシュママクラス®参加者や子育てピアカフェ参加者が受講後に記述したメッセージカードの結果から、本NPOが事業実施以降に目標とするポストコロナ時代を見据え新しい日常を取り戻すために、住み慣れた地域で仲間と集う居場所づくり（とちぎみらいピアセンター）への興味関心と期待度が高まった状態を感じ取ることができた。次年度は思春期部門を主力にこの休眠預金プロジェクトにおける活動を応用しながら、とちぎみらいピアセンター設立構想案の検討を深めたい。

V. 活動

活動	進捗	概要
プロジェクトチーム設置	計画通り	2021年7月プロジェクトチームを結成し、事業計画を検討した
オンデマンド方式公開研修会	遅延あり	2021年10月予定していた公開研修会開催を県の後援下11月に遅延開催した。受講前後のアンケート実施は、受講前10月、受講後12月まで実施した。
リフレッシュママクラス®	遅延あり	全県下2カ所開催予定した。対面式を足利市1月21日と2月25日、ライブ配信は12月18-19日に実施した。対面式は同窓会を3月予定となった。
子育て世代ピアカフェ	遅延あり	2市の後援を受けて、12月4日に宇都宮市保健センター、年明けて1月15日に小山市健康医療介護総合支援センターで実施した。
事業完了報告書の作成	遅延あり	オンデマンド公開研修会、リフレッシュママクラス®現在作成中。
事業紹介報告集作成	計画通り	2022年3月編集印刷製本発行予定
プロジェクトチーム解散	計画通り	2022年3月プロジェクトチームを解散予定

VI. 想定外のアウトカム、活動、波及効果など

想定外のアウトカム、活動、波及効果など	これからはwithコロナやポストコロナ時代における新しい日常生活のあり方を見出したことも驚きであった。感染者拡大により緊急事態宣言や蔓延防止令が頻りに発出され、当初計画の変更や縮小を余儀なくされた。半面、身近な日常生活や仕事・ボランティア活動への支障だけでなく、効用？をもたらす新たな視点を発見できた。オンデマンド研修会の効果や、子育てピアカフェで顕在化してきたピアセンター的活動に期待と関心が高まっていたこと、今まで対面式実施が基本であったリフレッシュママクラス®が今回初めて試みて実施したライブ配信で、新たな視点の目的（遠方の仲間づくり）や方法（オンラインを駆使して）が見いだされたこと等々がある。一方で、NPO活動で部門会議や活動打ち合わせがあるが、遠方で出席できないで欠席がちの者が頻りにZOOM会議で参加でき、対面でないからこそ緊密な連携が取れたことは思いがけない発見でもあった。これからはwithコロナ時代が継続されるだろうし、その後のポストコロナ時代における新しい日常生活のあり方への意義を見出したことも驚きであった。 ある。一方で、NPO活動で部門会議や活動打ち合わせがあるが、遠方で出席できないで欠席がちの者が頻りにZOOM会議で参加でき、対面でないからこそ緊密な連携が取れたことは思いがけない発見でもあった。これからはwithコロナ時代が継続されるだろうし、その後のポストコロナ時代における新しい日常生活のあり方への意義を見出したことも驚きであった。
---------------------	--

VII. 事業終了時の課題を取り巻く環境や対象者の変化と次の活動

課題を取り巻く変化	本NPOは設置した段階でコロナ禍に見舞われ活動に支障をきたしていた。そこを脱皮すべくかつコロナ禍だけでなくポストコロナ時代に求められる活動への弾みを見据えて、新型コロナ対応緊急支援助成活動に申請した。まずは採択されたことで滞っていた活動に弾みがつき、当会が求めていた活動に進捗が見られたことに何よりも会員一同エンパワメントされた。この活動で発見された課題はさらに当会の活動を発展させてくれるものと信じて取り組んでいきたい。当会4年度の活動として、A:思春期部門に焦点を当てた活動：コロナ禍における思春期問題に関するオンデマンド研修会や思春期ピアカウンセラー®の養成、コロナ禍で停滞していたイベントはピアエデュケーションなど具体的なピア活動の再開、思春期ピアカフェの構想・設立場所の確保や協力者の確保等々について、活動を深めていきたい。さらに、B:子育て部門は、休眠預金プロジェクトで実施できた子育てピアカフェや対面式リフレッシュママクラス®実施と共にライブ配信の再構築と継続実施等の基盤（グラウンド）づくり等々、ピアセンター設置構想構築として開始できる活動から、活動再開とする。
-----------	---

VIII. 他団体との連携

連携先	実施内容・結果
栃木県保健福祉部子ども政策課	休眠預金助成を説明し、コロナ禍の中の子育て世代を支える保健師・助産師・保育士・児童福祉等々支援者を対象のオンデマンド研修会の後援を依頼し、快諾された。
宇都宮市子ども部保育課	休眠預金助成を説明し、子育てピアカフェの後援を依頼し、快諾され、会場を借用できた。保育士たちが対象者の集会最後に、PRの場を提供してくれた。
小山市保健福祉部健康増進課	休眠預金助成を説明し、子育てピアカフェの後援を依頼し、快諾され、会場を借用できた。保健師たちが当日協力支援してくれた。
足利市健康福祉部健康増進課	休眠預金助成を説明し、リフレッシュマクラス®受講生の確保とPRに協力してくれた。
ボランティアグループあしかが子育て応援ネット	休眠預金助成を説明し、リフレッシュマクラス®実施会場の確保及び借用、当日の運営に協力してくれた。

IX. インプット ※事業完了月の月次収支管理簿の金額を入力ください。(精算金額と一致させる必要はありません)

		計画額	実績額	執行率
事業費	直接事業費	2,017,954	2,017,854	100.0%
	管理的経費	0	0	#DIV/0!
合計		2,017,954	2,017,854	100.0%
補足説明				

X. 広報実績

広報内容	内容
1.メディア掲載 (TV・ラジオ・新聞・雑誌・WEB等)	・CRT栃木放送 10月20日17時45分からニュース、10月24日10時からキラキラママ 生出演 放送 ・下野新聞 10月23日はぐくもっと 12月25日はぐくもっと 掲載
2.広報制作物等 当該事業費を使って制作したもの	・オンライン・オンデマンド公開研修研修チラシ「多様な子育てで、ポストコロナ時代の新しい日常を支える子育て支援者セミナー」 ・ライブ配信リフレッシュマクラス®研修会チラシ・対面リフレッシュマクラス®研修会チラシ ・子育て世代ピアカフェチラシ (宇都宮市保健センター)・子育て世代ピアカフェチラシ (小山市健康医療介護総合支援センター)
3.広報制作物、購入物等でシンボルマークの活用方法 (事例)	各研修会広報活動チラシにシンボルマーク表示 当NPOホームページ掲載
4.報告書等	栃木県後援報告書・宇都宮市報告書・小山市報告書 事業紹介・報告集作成

XI. ガバナンス・コンプライアンス実績

①規程類※の整備実績	状況	内容
※規程類：定款・規程及び準ずる文書類(指針・ガイドライン等を含む)		
1.事業期間に整備が求められている規程類の整備は完了しましたか。	整備中	現在コンプライアンス規定は、規定内容及び外部での委員を検討しています。
2.上記設問1で「整備中」の場合は、事業開始時と比較して、整備状況がどのように改善されたかを記載してください。		コンプライアンス規定を現在検討中。
3.整備が完了した規程類を自団体のwebサイト上で広く一般公開していますか。	全て公開した	
4.変更があった規程類に関して資金分配団体に報告しましたか。	変更はなかった	
②ガバナンス・コンプライアンス体制	状況	内容
1.社員総会、評議員会、理事会は、規程類の定める通りに開催されていますか。	はい	
2.利益相反防止のための自己申告を定期的に行っていますか。	はい	
3.関連する規程類や資金提供契約の定めどおり情報公開を行っていますか。	はい	
4.コンプライアンス委員会またはコンプライアンス責任者を設置していましたか。	いいえ	現在コンプライアンス規定は、規定内容及び外部での委員を検討しています。
5.ガバナンス・コンプライアンスの整備や強化施策を検討・実施しましたか。	いいえ	
6.報告年度の会計監査はどのように実施しましたか。 (実施予定の場合含む) (複数選択可)	<input type="checkbox"/> 外部監査 <input checked="" type="checkbox"/> 内部監査 <input type="checkbox"/> 実施予定はない	特定非営利活動法人とちぎみらいwithピアの監事岡崎浩子氏に監査を依頼予定。
7.本事業に対して、国や地方公共団体からの補助金・助成金等を申請、または受領していますか。	いいえ	
8.内部通報制度は整備されていますか。	いいえ	規定は整備されていない、内部で不正が生じた際は理事に通報することになっている。

XII. その他

自由記述